

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 10 月 2 日

【評価実施概要】

事業所番号	2 1 7 3 3 0 0 0 2 7		
法人名	有限会社しましまハウス		
事業所名	しましまハウス寺林		
所在地	岐阜県飛騨市神岡町寺林1 2 4 6 - 1 (電話) 0 5 7 8 - 8 3 - 2 8 8 8		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成20年9月17日	評価確定日	平成20年10月30日

【情報提供票より】 (平成 20 年 9 月 1 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 8 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 5 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	5 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,500 円	その他の経費(月額)	7,500~ 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 9 月 1 日 現在)

利用者人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低 79 歳	最高	89 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	飛騨市民病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山間に広がる稲田やトマト栽培の畑は広く、大きく、耕地が整理され、休耕田はコスモスが咲き誇り、村の鎮守様への散歩コースは静かで気が休まる。そんな農家が点在する環境にある元カラオケハウスを改造した木造平屋のホームは、明るくおしゃれな白亜の玄関口で、その前の木柵に囲まれたテント・イス・テーブルはカフェの趣である。地元の未経験者を採用した職員は、積極的な研修体制のもと資格取得や自己啓発に勤しみ、地域出身の利用者と共に気のおけない毎日を過ごしている。若い職員は乳飲み子を連れて出勤し、利用者がオムツを取り替え、同様に2人目も育て、成長した子どもは1人で来て利用者と一緒に遊んでいる。そんな自然な生活がある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を契機として、自治会長が運営推進会議に出席し、家族会が設立され、法人内の研修体制を見直し、浴室の改装は利用者・職員に好評で、他施設との交流ももたれ、防災訓練も行われる等、様々な課題が改善された。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は介護計画作成担当者とともに全職員から聞き取り調査を行い、折々の会議やミーティングで出された意見をふまえてまとめた。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は包括支援センター職員、民生委員や家族の出席のもと隔月に開催され、事業・行事報告、ヒヤリハット等の介護上の課題や外部評価における課題などが話し合わせ、一層の改善に活かしている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	「苦情箱」が設置され、家族会があり、運営推進会議には家族の出席が勧められ、外部苦情窓口も案内している。月刊「ホーム便り」は家族の安心につながり、地元の利用者や職員で、風通しや透明度は高く、経営者の実行は早い。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	隣家の庭先がホームの駐車場となっており、自治会長が運営推進会議に出席するようになった。徒歩通勤の職員や地元出身の利用者がほとんどであり、地域に溶け込んだホームといえる。防災避難時の地域住民による応援体制も出来ている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「高齢や認知症により自立できなくなった利用者を、生まれ育った地域の思い出や生い立ち等を考えながら残された能力を引き出し、余生を楽しく過ごしていただく」の理念と共に今年のキーワード「笑顔」が作られている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員も利用者も共に地域の住民で、地域の情報が入りやすく、つながりが得やすい環境を活かし、理念を定着させている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣家の庭先がホームの駐車場となっており、自治会長は運営推進会議に出席するようになった。利用者も職員も地元出身であり、小学校の遠足ではホームに立ち寄り、交流し、防災避難時の地域住民による応援体制も出来ている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価を契機として、自治会長が運営推進会議に出席し、家族会が設立され、法人内の研修体制の見直しがあり、浴室の改装は利用者・職員に大好評で、他施設との交流ももたれ、防災訓練も行われる等、様々な課題が改善された。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、隔月に開催され、事業・行事報告、ヒヤリハット等の介護上の課題や外部評価における課題などが話し合われ、一層の改善に活かしている。</p>		
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市が主催する毎月の介護事業担当者会議に出席し、改正法令の解説や情報交換等により、情報を得ている。市職員の運営推進会議への出席もあり、交流の機会が多い。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>毎月発行される「ホーム便り」には職員が撮影した大判写真も掲載され、家族の安心感につながっている。家族会があり、地元の利用者や職員がほとんどであり、風通しや透明度は高い。契約書や重要事項説明書の見直しを作業中である。</p>	○	<p>見直した書類等は、すみやかに家族等に報告・説明されたい。</p>
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>「苦情箱」が設置され、家族会があり、運営推進会議には家族の出席が勧められ、外部苦情窓口も案内されている。地元の利用者や職員がほとんどであり、風通しや透明度は高い。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>開設以来、職員の離職は無く、固定のメンバーである。働きやすい職場づくりが何よりの離職対策であり、利用者へのサービスになっている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地元の介護経験の無い職員が採用されているため、外部研修や資格取得などの自己啓発が奨励されている。出張費用または講習会費などの金銭的な手厚い援助もある。同法人経営の3ホーム合同で、ビデオ学習も予定している。	○	地元職員は、地域性が理解しやすいといった利点もあるが、未経験者を育てる必要があり、そのための取り組みに期待したい。外部研修は立地条件から参加しづらい環境にあり、それをカバーするためにも、内部研修の益々の充実を図りたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隔月で飛騨地方3市合同のグループホームやケアマネジャー会議に出席したり、市主催の介護サービス担当者会議もある。また、他の事業所の運営推進会議に招かれて出席し、情報交換や交流に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員体制と、地元入居希望者の1ヶ月間の仮入居期間における生活の様子とを勘案して入居を決定しており、馴染めるかどうかを、経営採算以上に重視している。それだけに職員も本人の安心感を得るよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が職員と共に作ったポケットティッシュケース、本のしおり、雑巾などは同法人経営の3ホーム合同運動会に参加した地域の子ども達や保育園に配られ、応援用うちわも立派な物を制作している。職員は乳児を連れて出勤し、利用者と共に子育てをし、成長した子は1人で遊びに来ている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その日の気分や健康状態によって本人本位で優しく気遣っている。農家で畑仕事をやってきた人、茶道の先生だった人、調理人だった人など、これまでの暮らし方を本人や家族から聞き出し、夫々の得意を大切にし、ホームでの生活にも活かしてもらっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の気持ちを中心に、家族や職員が目指す方向を計画作成担当者がまとめ、介護計画を作成し、家族の同意を得ている。遠方の家族には文書のやり取りで、意思を確認している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画作成担当者は毎日の業務日誌を熟読し、利用者毎の介護記録を作成し、毎日・毎週・毎月の会議で職員と見直し、必要に応じて介護計画の修正を行っている。利用者概要書(フェイスシート)や個別介護記録の様式等の改善策を検討している。	○	様式を検討され、職員が情報を共有しやすい環境整備に期待したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	元理容師の職員が無料で整髪している。建物が元カラオケ施設であり、カラオケセットやステージを使って楽しんでいる。通院時の移送サービスも無料である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携している市民病院から月1回の往診があり、全員が受診している。歯科や専門医への受診は通院移送サービスを無料でやっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「看取り」を行う旨を重要事項説明書で明記している。医師・家族と連携しながら介護し続けるが、医療行為も必要となり、入院するケースが多く、結局、看取りにまでは至っていない。	○	「看取り」についての対応マニュアルの作成が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取扱については入居時に同意書が受領され、その資料管理も事務室で行われている。トイレ誘導もさりげなく行われ、新装の風呂脱衣所も利用者のプライバシーに配慮されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本の好きな人と図書館へ行き、俳句の好きな人と俳句作品の応募をし、海外生活の長かった人から外国語会話を習い、隣県漁港の回転寿司に遠出もしている。自分の地元で地元の人と過ごす穏やかな生活が何よりである。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地元で調達できる米・牛乳以外は、外部給食会社が献立を決め食材を配達している。調理は元調理人の利用者も一緒になって行われ、自家製や差入れの野菜物も使われる。季節・行事・誕生日毎に特別食もある。	○	食材や献立に関する定例的なチェック体制についての検討が望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	前回外部評価をきっかけに、ホームの浴室が新しくなり、入浴がより楽しくなった。市から支給される「温泉入浴券」を使って、毎月1回、市内の温泉にも出かけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	元調理人による料理の下拵え、元華道の先生による活花、農家主婦による畑仕事、刺繍や布巾刺し、運動会の万国旗や応援用のうちわ作り等、利用者の得意が発揮されている。部屋の掃除・洗濯物たたみ・カラオケ教室と充実した日々を過ごしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	経営者手作りの玄関前のレンガ張りは足裏の触感を刺激し、テントの下に置かれたテーブルで昼下がりのお茶を飲み、稲田やトマト栽培ハウスを見ながら近くの鎮守様へ散歩を楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	元々戸締りの風習の無いような土地柄で、玄関の施錠は無く、居室にも鍵の設備は無い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣住民からは、災害時の避難脱出などの支援を受けられる体制がある。消防署の避難・救急処置訓練を受け、利用者の必要情報をまとめた救急ファイルも用意されている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は体温・血圧・排便などと共に管理記録されている。夏期には、水分補給量も記録されている。夜間も必要な人にはポットが用意され、水分補給も見守りされている。利用者ごとに大まかな必要カロリーを把握しようと検討している。	○	一人ひとりに必要な栄養管理や水分量を把握し、利用者の健康管理に取り組まれない。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	改造建物であるが、手すりや滑り止め等が配慮されており、不自由は無い。全般的に家庭的な馴染みやすい雰囲気が大切にされている。	○	利用者用トイレが1ヶ所であることや台所にあるコピー機や洗濯機は適切な場所に設置される等の対応策が望まれる。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔な部屋からは山の緑や稲田が見える。ベッド・整理タンスなどは、利用者が持ち込んだ物で、それぞれ個性的な部屋となっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。